

## 日本医学会分科会活動報告

公益社団法人日本臨床腫瘍学会  
理事長 石岡千加史

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

### ① 医療従事者に対するがん医療の普及・啓発

学術集会を通して専門領域の医療・医学の進歩や課題を発表・議論し、がん医療の普及・啓発に寄与する。年1回学術集会を開催し、多くの演題発表の機会と参加者による活発な討論の場を提供するとともに、学術的または教育的なシンポジウム等を数多く企画し、専門的知識の向上の機会を提供している。さらに、がん診療ガイドラインやガイダンスの作成に取り組んでいる。これは日本のがん診療の水準を高めるためには欠かせないものである。

### ② 専門医養成を含む医療従事者の教育

腫瘍内科専門医は主に抗がん剤を中心とする治療（がん薬物療法）に加えて、がん患者の合併症の治療、緩和ケアや集学的治療（手術、放射線や抗がん剤の組み合わせ）やチーム医療を広く専門的に行う。2021年4月1日時点で1,530人が認定されている。最近ではがん遺伝子パネル検査の臨床導入、がん免疫療法の発展に伴い、がんゲノム医療をはじめとする個別化がん医療の中心的な専門医として益々ニーズが高まっている。医療従事者向けに、日本で唯一の臨床腫瘍学の教科書である新臨床腫瘍学（3年毎に改訂、現在、改訂第5版発刊中）を刊行、教育セミナーAおよびBセッションの年次開催、がん治療の最新情報を提供する米国臨床腫瘍学会（ASCO）との共催でBest of ASCO in Japanなど、多数のセミナーや研修会を開催している。

### ③ 臨床腫瘍学を中心とする学術・研究活動の推進

新しい診断や治療方法（診断薬や治療薬を含む）を開発することは、がん医療の進歩に欠かせない。学術・研究活動を支援することにより、臨床腫瘍学分野の発展とがん医療の向上を目指している。国際学会である欧州臨床腫瘍学会（ESMO）でありAnnals of Oncologyを機関誌として学術活動を推進する活動を行っている。

b. 当該領域における国際的な役割

米国臨床腫瘍学会（ASCO）、欧州腫瘍内科学会(ESMO)、及びアジア・オセアニアのがん関連学会との連携によるガイドラインの共同策定や学術交流等の事業を行いながら世界をリードして来たことから国際的な役割を担ってきたと考えている。また、当学会は、米国臨床腫瘍学会（ASCO）、欧州腫瘍内科学会(ESMO)にならぶアジアのメディカルオンコロジーの中

心学会になることを目指している。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

日本臨床腫瘍学会は、臨床腫瘍学を幅広く探求する学術団体であることから、がん治療学、特にがん薬物療法を学術領域の中心に据えている。がん診療の普及、臨床腫瘍学に関する教育、がん研究の推進、腫瘍内科医を含む臨床腫瘍学の専門家の養成、がんに関する正確な情報の提供を行い国民の福祉の向上を図ることをビジョンとしている。

また正しいがん医療の実現には、正しい情報の発信のために市民への啓発活動が欠かせない。患者会など医療従事者以外の参加を支援するとともに、定期的に市民公開講座を実施している。また、社会への情報発信のために学術集会前に報道関係者を招いてプレスセミナーを開催するなど、最新のがん医療の普及・啓発に積極的に取り組んでいる。

d. 学会運営上留意している点

本学会は臓器横断的な疾患の特徴から、各領域の医師のみのならずがん診療に携わるその他の医療従事者など多職種に及ぶ会員が在籍しているため各会員のニーズに対応するような学会運営を行っている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

日本癌学会及び日本癌治療学会等の国内学会がん関連学会との連携による各種要望書の提出や、共同声明の発出、ガイドラインの共同策定などの事業を行っている。

<学術集会合同セッション>

日本癌学会/日本癌治療学会:がんゲノム医療に対する3学会の取り組み

日本緩和医療学会:最先端のがん治療と終末期ケアをどのように統合するか?

日本放射線腫瘍学会:免疫療法と放射線治療のコラボはあるのか

日本循環器学会:腫瘍学と循環器学の連携一点から線、そして面へ

日本がん看護学会:ゲノム医療における多職種の取り組み: Precision Medicine を担う人材育成

日本小児血液・がん学会:小児とAYA世代の腫瘍学:比較と引き継ぎ

日本サルコーマ治療研究学会:悪性骨軟部腫瘍の集学的治療体系の確立をめざして

<要望書>

適応外使用要望書の共同提出: 日本頭頸部癌学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本血液学会等

<ガイドライン>

成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン